

0歳児交流会



子どもステーションの事業



子育て講座



多胎児交流会(さくらんぼの会)



パパ交流会

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

《気になるお子さん等への具体的支援策》

〈継続事業〉

- 発達支援センター「おひさま」での母子通園、単独通園及び早期療育事業
- 市立保育園(13園)全園での障がい児の受け入れ
- 放課後児童育成クラブでの障がい児の受け入れ
- 小中学校での特別支援員、特別支援学級補助員、スクールライフサポーターの配置

〈新規事業〉

- 親子育成支援事業「ジョイジョイ」の実施(気になるお子さんの生活習慣獲得促進事業) 平成20年度～
- 国のモデル事業を活用したペアレントトレーニングの実施 平成19年度～
- 個別の教育支援計画「すくすく」の実施 平成19年度～

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

《大府市における気になるお子さん支援の経緯》

- 昭和49年度 障がい児保育の開始
県等の要請により希望者のある園で実施、後に全園で実施
- 昭和50年度 精神薄弱児通園施設「大府学園」開所
身辺自立に必要な基本的な生活能力や環境に対応する適応性を養い、知的技能を体得させるため
- 昭和56年度 親子療育活動「桃山教室」開始
障がい児の早期発見と母子療育の推進のため
- 平成14年度 小中学校での特別支援学級補助員の配置
- 平成15年度 小中学校でのスクールライフサポーターの配置
- 平成17年度 精神薄弱児通園施設「大府学園」を改称し、発達支援センター「おひさま」として、指定管理者での運営を開始
- 平成18年度 小中学校での普通学級特別支援員の配置
- 平成19年度 ペアレントトレーニング及び個別の教育支援計画「すくすく」の開始
- 平成20年度 親子療育活動「桃山教室」を拡充した親子育成支援事業「ジョイジョイ」を開始

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

《気になるお子さん等への子育て支援の要請》

- 特に保育園や小学校（普通学級）で、個別に支援を受けたほうが良いと思われるお子さんが増加しており、落ち着きのあたるクラス運営が困難になってきている。
- 医学の進歩で発達障がいが見つけられるようになったが、診断名のつかない支援の必要なお子さんが急増している。
- 核家族化などで子育てが家庭で継承されなくなっている。また、仕事との両立で育児にかかる時間が少なくなり、子育てを重荷に思ったり、不安に思う保護者が増えている。
- 障がい児通園施設の定員が一杯という状況もあるが、気になるお子さんの増加や様々な特性を持つお子さんへの対応が必要となり、これまでのシステムでは対応ができなくなってきた。
- 早期発見し、お子さん各々の支援につなげるためには、一貫した支援システムの構築が必要となってきた。
- 障がいではなく、発達のゆっくりなお子さん、発達の気になるお子さんという発想がないと支援につなげないケースが増加している。

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

《気になるお子さん支援の具体的課題》

- 支援の場をどのような人材で運営するか。
- 障がいや発達障がいに対する無理解で支援へのハードルが高いことをいかに解消するか。
- 出生児の約1割といわれている個別に支援を受けることが望まれるお子さんを、いかに支援の場につなげるか。
- 療育の必要を認識しない保護者の場合、障がい児の施設となると拒否されるケースが多く、場所の選定に配慮が必要。
- 多くの発達障がいの場合、支援開始は5歳では遅いといわれており、いかに乳児期で発見し、いかに保護者が就労を開始しやすいお子さんの就園前に支援を開始するか。
- 保護者(特に母親)のスキル習得が大切であるため、保護者の育児知識不足や育児不安の解消をいかに行うか。
- できるだけ多くの日常生活の場面を教室内で設定していくことが望まれる。

大府市における気になるお子さんへの子育て支援

《親子育成支援事業「ジョイジョイ」》

① 目的

- 生活経験を通して基本的な生活習慣を身に付ける。
- 友達と触れ合いながら、社会性の芽生えを育てる。
- お子さんへの関わりを学びよりよい親子関係をつくる。

② 対象：発達気になる幼児と保護者

③ 定員：各教室10組 参加費-昼食代200円

④ スタッフ：保育士3～4名、保健師、臨床心理士

⑤ ステップアップ教室：週1回 22回(5～6ヶ月)コース

- 月～金：一般 ・ 土：保育園児、幼稚園児
- 保育園で現在6教室開設(9時半～12時半)
- あいさつ、親子活動、片付け、トイレ、食事等

⑥ フォローアップ教室：ステップアップ教室修了者のフォロー



大府市における気になるお子さんへの子育て支援